

種名	<u>シ ョ ウ ジ ョ ウ ト ン ボ</u> <u>Crocothemis servilia mariannae</u> 
分類	昆虫綱トンボ目 トンボ科
俗称	和名は、成熟した雄の朱紅色の体色を猩々(しょうじょう)色に見立てたことによる。
形態的な特徴	体長 48mm (腹長 27～33mm、後翅長 32～37mm) ほどで、雌雄ほぼ同じ大きさ。未成熟個体は翅全体が淡い橙黄色で、体全体も橙黄色をしていてアカトンボ類やウスバキトンボに似ている。成熟すると雄の翅は基部のみ赤化して、あとは透明になる。また体色も全体が鮮やかな赤色になる。幼虫は、体長 18～21mm (頭幅 6～7mm) ほどの淡褐色から濃褐色のヤゴである。
分布	北海道(函館)、本州、四国、九州に分布し、東北日本では産地に限られる。離島では佐渡島、見島、壱岐、対馬、五島列島、天草諸島、甕島列島、南西諸島のほぼ全域に分布する。
繁殖行動	成虫はふつう4月から 10 月頃に見られ、八重山諸島では周年見られる。幼虫はおもに夜間、挺水植物の茎や護岸壁などに定位して羽化をおこなう。羽化後、未成熟個体は羽化水域からやや離れた草むらや林縁などに移動して生活する。成熟した雄は水辺の植物の上などに止まって縄張りを張り、占有領域の上を飛んで雌を探す。交尾は 7 月から9月頃に終始飛びながらおこなわれ、交尾後、雌は単独で水域の植物の際や水面の浮遊物の周囲にやや間を置いて連続打水産卵をおこなう。雌が産卵している間、しばしば雄が上空でホバリングし、再三、交尾・産卵を繰り返すことがある。
生息場所	おもに平地から丘陵地の挺水植物が繁茂する池沼や湿地、湿原、水田など明るい止水域に生息し、ときには海岸線の汽水沼でも見られるなど広範囲に生息する。幼虫は、挺水植物の根元や植物性沈積物の陰に潜んで生活している。典型的な水田のトンボで、夏に赤い色をしているトンボは本種である。西南日本では各地でごくふつうに見られるが東北地方では産地が限定される稀な種である。開放的な水面を好み水域が植物で覆われてくると見られなくなる。
食性	幼虫はミジンコ、イトミミズ等の水生生物、成虫は空中を飛翔する微小昆虫を捕食。
生息環境への配慮事項	休耕田などで水が張っており、植物がまばらな水域、あるいは水溜りを好む。
引用文献：http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html 参考文献：田んぼの生きもの指標 NPO法人農と自然の研究所	